



☆ セイコーエプソンと諏訪清陵連携講座

「時計のしくみ」が催されました ☆

12月9日(月)長野県塩尻市のセイコーエプソン塩尻事業所において、本校2学年のSSHコース希望生徒が連携講座「時計のしくみ」に参加しました。

当日は、セイコーエプソン塩尻事業所ウオッチ事業部の窪田部長、大原さん、竹岡さん、相馬さん、総務部の福井さんにご指導をいただきました。



特に時計の分解・組み立て作業の体験では、国際技能オリンピック時計部門の初代金メダリスト(1977)であるベテランの竹岡一男さん(写真右端)と第25回時計技能競技全国大会(2012)のクォーツ部門で優勝された若手の相馬弘希さん(写真左端)に直接指導していただきました。大原さんには現在の時計の最先端技術について、特に水晶発振装置の仕組みと、時計の機械部品の成り立ちなど詳しく解説を頂きました。

～ 「腕時計は、日本の匠の技が詰込まれた宝箱」のようでした ～

本校が立地する長野県諏訪地方は、かつて「東洋のスイス」と呼ばれた精密機械工業の一大拠点でした。その中核をなしていた企業が、数々の時計の名品を生産してきた諏訪精工舎です。今回の連携講座では、その伝統を受け継ぐセイコーエプソン塩尻事業所で、精密機械と最新の電子技術が融合した工業製品の一つである腕時計の分解・組み立て作業を体験させていただき、その精緻な部品が見事に組み合わせられて機能的で美しい腕時計が作られていることを実感させていただきました。



「1日細かい作業に集中して疲れた」との感想から、「時計の設計、製造、その修理、いずれも日本の匠の技が結集されているようで、時計はその技が詰込まれた宝箱のようだ」、「直径数cmの中に、部品が効率的に収められていることに感動した」、「部品一つひとつ、そして組み立てられた機械が美しく芸術品のようだ」、「どのように設計されているのか、驚くばかりでした」、「僕らが1日かけて分解組み立てした時計を、竹岡さんや相馬さんは3時間ほどでオーバーホールできるとききその技術におどろいた」、「工場には女性作業員が目立った」、など、時計産業の持つ技術に改めて感動したとの声を聞きました。



本校SSH連携講座は、理学系のみならず工学系の講座も開講しており、地域の企業から多大の支援を頂いています。